

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



和 清 山 香
校 學 門 上 野
會 校 門 上 野
所 刷 印 所 刷 印

飛行機とバスと馬

蕉

香山君、僕は今、この記事を安東省鳳城縣下の雙陽邊門と云ふところで書いて居るのだ。安東から寬甸の縣城までを飛行機で飛んで其處で一泊し其處から今日バスで二時間車輪漚と云ふ街へ、云つても僅に鹿岩等が圍まれた四、五十戸の村邑に過ぎないのだが、まだ運ばれて更に其れから迎へる馬に乗つて此處安陽邊門に着いたのだ。

同行者は湯川西豊種蠶繭場長、用務は微粒子検査を主とする種蠶繭場の検査業務の状況視察、御承知の通り種蠶繭場の微粒子検査は西豊の種蠶繭場の主要業務なのだ。今年度の種蠶繭場要量——無毒種の配給申込み數量が昨年の三百万粒に對し今年度は千二百万粒と云ふ風に激増した爲に僕の方から極力後援することゝして、さてその御件なのだ。

何時、斯んなに増えたか！ それは昨年種蠶繭場で配給した種蠶繭の成績の良かった爲もある。

全時に香山君、君か湯原君とミニール据付に來滿して居つた當時にも多少は御話して置いたやうなことの總てが具體的になつて來た爲でもある。結論的に云へば今後三ヶ年に現在の倍額生産を目標として進むと云つた方針が決定された爲でもある。

然し、いつと一般的な抽象的な言葉で云へば種蠶も漸く時代の波に乗つた爲だと云つた方が當つて居ると思ふ。

香山君、新聞紙の傳へるところによると日本内地の蠶絲業界にも「特殊繭」の生産と云ふ僕等が昔考へたことも無いやうな政策が眞面目に考へられ具體的に進行して居ると云ふおぢやないか！

斯ふした時勢だ。羊毛代表品としての分野に關する限り如何なる部面から眺めても家蠶絲に對して絕對に優位にある種蠶絲が省みられない筈が無いではないか。僅かに三、四年前二百斤、五〇—八〇圓の府絲が昨今は四百五十圓位で羽が生へて飛ぶ世の中だ。更に

昨年度の種蠶繭の輸出金額が合計千百万圓、然るに今年度、滿、伊への輸出額が僅かに五百萬圓だと傳へられて居る。時勢の波に乗つたと云ふ意味が譯つて呉れたと思ふ。

然し同時に吾々の仕事も多事多端だ！先月の二十二日からは滿洲で始めての種蠶繭講習會を熊岳城で開いた。講師は湯川、赤沼、野野、岡、それに僕と云ふ顔觸れ、聽講者も約五十名で關係技術者の少い滿洲では頗る盛會だつたと云へる。この時の記事は多分野野君から報告されると思ふ。

野野君と云へば同君の種蠶繭の本質に關する研究もその後着々と進んでその一部は今年度の滿洲農學會で發表して貰ふことになつて居る。

その後の研究の結果は一つ一つ種蠶繭の良さを示すことばかりだ。斯ふした方面から新しい用途を見付けることは例へば玉を磨くにも似た楽しい仕事になつて居る。

香山君、君が濱君の所謂一八六〇年代の古機械と取組んで居た五房店での會合の時から余り長い月日は無いやうに考へられるに滿洲では既に秋も半ば、熊岳城では果が出盛り、此處鳳城縣下では朝夕は寧ろ冷たく周囲は紅葉の盛りだ。

紅葉と云へば君は飛行機の上から紅葉を賞したことがあるか！ 繪のやうな美しさと吾々は常に云ふけれど飛行機の上からのそれは繪よりも美しいと云ひ直さなければ當らないのだ。黄に綠に、紅に一株一株が丸く象眼されたやうに或は七寶細工のそのやうに山肌を埋め谷を埋め其處に帯のやうな清流が處々深淵を堆めて居るのだ。この邊の景色は信州邊と余り變りが無いと思ふ。

寬甸から車輪漚までの乗合自動車からの眺めも同様、車輪漚から雙陽邊門までの二里の路を白馬に銀鞍を置いて吾れ乍ら颯爽と納まつた姿は湯川氏と共に傍の清流に美しく映つてその邊の魚族を驚かしたやうだつた。——この颯爽振りには他日栗栖超其他の寫眞で明になることと思ふ。

雙陽邊門と云ふところは種蠶繭係者の間には古くから優良種蠶繭の産地として名前の通つた處、然し一面に於ては最近には匪賊の巢窟としても名のあつたところ、街は數年前匪賊に焼かれたつたところ、名残を留めて僅一町半四方位の半壞の城壁の中に三、四十戸の商賣やら農家が散在して居るに過ぎない。然し日本の守備隊もあり、警察署長も日本人であつて現在の治安は良く保たれて居る。

香山君、君等はマ、都會人として斯んな山の中の生活には余り馴れたことはないだらうと思ふ。然し斯んな山の中に還入ると却つて普段考へても見なかつたやうな例へば「人生とは」と云つたやうなことが必考へさせられるのだ。

例へば斯の邊の住民達の中から衣服に繼ぎの當つて居ない人間を探し出さうとすればそれが如何に困難であるか？ 且つて今度の事變の始まつた當時、日滿の關係、滿支の關係を徹底させようとして宣傳班が遣入つたところ住民は未だに時代は清朝の時代だと信じて居り宣傳の必要どころか結局彼等の生活必需品である鹽を恵んでやつて王道國家の有難さを込み込ましたと云ふ。

斯ふした世界で生活も矢張り人間の生活と云はねばならない以上吾々の生活と云ふものも考へねばならぬではないか。その上此の附近では畑のものも良くは出来なない高梁の穂の大きい熊岳城附近の三分の一も四分の一、粟はイモコロガシ位、馬も牛も、豚までも瘠せて居るのだ。斯んな環境で人は何を望み、何を目的に生きて行くのかと思ふ。

香山君、然し斯んなミミマムの生活環境にも新しい文化が遣入つて來るのだ。その一番大きなものが東遼道横斷の鐵道敷設だ！ 既にその轡手としてトラック

は毎日夥しい爆音を響かして居り、吾々の仕事ととも斯んな山の中に顯微鏡を十數臺も携へて遣入つたのであつて見れば同じ事が云へるでは無いか。

面白いのは今度の旅行だ。何と云つても長途のことだし一人二人で歩く譯には行かない。其處で警察署に行つてトラックの便は無いかと聞き都合によつて乗せて貰ふ。船は帆かせと云ふけれど吾々の今度の旅は幸ひにトラックの便があれは乗せて貰ふので正確な旅程は立たない旅はトラック、便ませ、雨の降る日は寝て暮すと云ふ譯である。

それでも大體の日程一週間か六日で済み歸りは寬甸から長甸河口に出て鴨綠江をボンボン船で下つて安東に歸着、熊岳城には翌朝歸つた。

この文章も書出しは雙陽邊門の蠟燭の光で認め終りは熊岳城の方で書いて居る。

現代乾繭機界ノ王座
大和式自動輸送乾繭機

二五九九年代表型

製作發賣元
株式會社
大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋(56)五三二〇番

營業課目
特許大和式自動輸送乾繭機
特許大和式自動輸送乾繭機
特許帶川三光式乾繭機
特許やまゝ式過湯淨水装置
特許サンコー式湯淨水装置
特許サンコー式湯淨水装置
特許サンコー式湯淨水装置

香山君、實は君の命令で書く筈だつた時報原稿は「滿洲での香山、湯原兩先生」と云ふ題で十數枚書いてはあつたのだ。然し何分にも筆が枯渇してきつて自分乍ら面白い文章が出来なかつたので御叱りを覺悟で止めにした。

この文章だつて面白くはない。然し滿洲での生活に斯ふした一面もあると云ふことは知つて貰つて良いと思ふし少々責めに堪へると思ふ。滿洲の種蠶繭の動向に就いてはモット具體的に書き度いのだが今はその自由も無い。然し全體として進むべき軌道に乗り關係者一同勇躍してその任を果して居ることだけは君にも告げ度い。この中に千曲會の人達がどの位居るか！ それは云はなくとも良いであらう。兎も角も一同元氣だ！

(康徳五年十月五日稿)

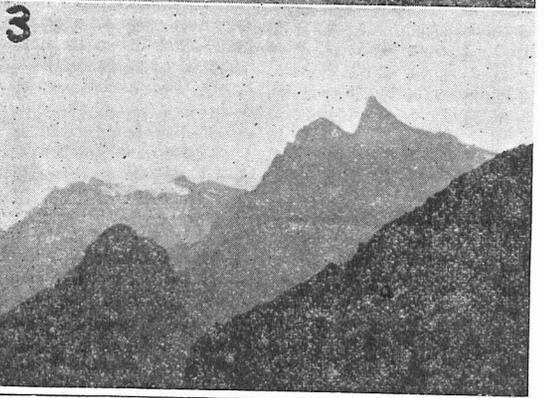
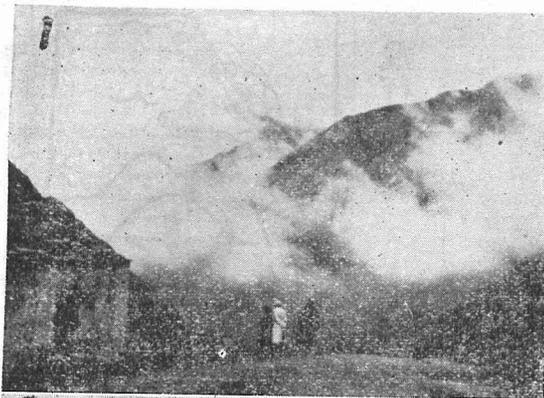
歐洲で讀む千曲時報

ベルリンにて 央洲生

僅か半年位しか居られない歐洲であれこれとやり度い事は山程ある...

千曲時報の産みの親としての一人である私は第六號迄やつて筆禍を買つて...

甚だ申譯ない事ではあるが日本に居る千曲時報は殆んど此五六年來見もしなかつた...



事後の報告と云ふ様な事は進歩の激しい此世の中にも然る多難な蠶絲業界に餘り有...

張り切れる様な氣持の獨逸に居ると日本も此通りで非常時色濃色ならんと考へ...

「盗坊が入るのに防衛術を知らなければ」と答へられた如何にもと思つた。

獨逸で少し話して居ると向ふから御前は何處の何處の大學で勉強したかとか...

山に向ふ 栗柄超
ながいひでのりのあと、ひどい雨にやられて...



獨逸で少し話して居ると向ふから御前は何處の何處の大學で勉強したかとか...

九月九日に獨逸を立つて米國へ行く積が大坂本社からの電命で延期した。私の...

獨逸で少し話して居ると向ふから御前は何處の何處の大學で勉強したかとか...

九月九日に獨逸を立つて米國へ行く積が大坂本社からの電命で延期した。私の...

新東京公園所見 國務院新廳舎を望む 撮影 出野正雄氏

河馬のあくび

克 郎

早いものである。僕達が、何にか軟いものにでも觸るやうな不安と焦燥のクロスアップされた氣持で、學校を飛出してから四年半、約五年と云ふ長い年月の間

に起つた事件を経験した。十年一昔と云ふから二分の一昔前に卒業した事になる譯である。而も物事が急テンポで進展して行く現代の世の中に於ては、この時の

單位をラフではあるが五年一昔と訂正しても、何處からも苦情の飛び出す懸念は先づないと思ふ。

卑近な一例として十年程前は、滿洲なんて聞くと、聞いた丈で馬賊の縦横無盡に疾驅する唯徒にダダツ廣い廣野を遠

い夢の國の様想像して居るに過ぎなかつたのが、五年前の滿洲事變の後に於ては、吾々の視界は益々擴大され、三才の

童兒に至る迄滿洲を得々と語る様になつたものである。而もそれが滿洲は中華民

國の北方に位置し、その一部であると云ふやうな地理的の考へからではなく、日

本と非常に接近した國として考へるやうになつたのである。更に最近に至つて今

度の日支事變の勃發するに及んで、外國とばかり思つて居る支那が案外に總ての

點に於て日本内地と近い距離にあると云ふ事を思ふやうになつて来た。之を逆に

五年前に於て誰か斯くの如き結果を豫測し得たであらうか。以上の如き一例を以

つてしても、五年一昔の訂正もあながち不當なるものでもあるまい。

斯様な目まぐるしい廻轉と云はうか、或は急流と云はうか、兎に角、そんな空氣の中に棲息して、思ひを自分自身

の上に致す時、變らないものは唯自分丈だとツツク思ふ。何んだか一人ポツツ

で暗い而も廣い所に取殘されたやうな氣持である。又は獨り所のない氣持と云つても符號するかも知れん。何れにしても

時運の歩みの中に少しの破綻もなく、全自己を投出す事は至難のやうだ。

最近僕は、卒業以來全然一度も會ふ機會を持たなかつた同級生の或る友人と會つた時に、最初の挨拶の後に受けた質問

は、何んと「君も随分變つたね」と云ふ質問だつた。僕はこの時「いやそんな事

はないよ。僕は相變らず生れた時と同一の僕だ。變らない僕を變つたと觀察する

君の方が或は餘程變つて居るのかも知れないよ」と答へて笑ひ合つた事を今でも

記憶の一片として腦髓の中がら引出す事が出来る。實際人間なんてもいへ、そん

なに簡単に變るものではないと思つて居る。誰々は最近に變つた等とよく聞く事

があるがその度に僕は不思議の感に打たれる。

或る識者は好んで、人間が物を規定するんじやなくて、物が人間を規定するんだと主張する。もう少し頭にヒンと来る

言葉に云換へれば、人間なんてもいへ還境の傀儡のやうなものであると云ふ意味

を強調する言葉だと思ふ。この言葉を否定するが、肯定するかは別問題として、

この言葉を真と假定すると、人間はどんなに努力しても還境を作り出す事は出来

ないと云ふ事になる。が實際は果してそうか。幾何の歸謬法的に云つて然らず、

人間が社會に順應して行く點のみから見ると、一面の眞理のやうな氣もするが、

僕は寧ろ順應して行くのではなくして、順應せざるを得ないのであると解釋し度

い。意識的と無意識的との差こそあれ、結果は同じ事かも知れないが、僕は兩方

だと思つて居る。斯様に理論と實際が互に相剋して居る様に見える世の中の綱目

の上に、生れた時と寸分の差違をも發見出来ない自分を見出した時は、淋しく思ふ事がある。

僕は幸か不幸か卒業後餘りスムーズな道を進む事は出来なかつた。寧ろこうして學校に居て見ると、粗面の周囲を一巡して原の出發點に引歸つて来た結果にな

つて居る。その間社會をほんの小さな視野で見た事と、僕自身の欲する智識の少量を得た事がせめてもの慰みだと思つて居る。今度社會に出る時は進路を直線を

探り、而もその直線に或る一定の勾配を持たせたものでありたいと願つて居る。

學校内の生活、僕は現在且教授、O助教授に就いて或る研究の御手傳ひをさせ

て戴いて居る。俸給の安い點のみから云へば實社會に早く出て居る人間の方が實

利的だが、環境は良いし、時間は充分にあるし住み良い所であると思つて居る。

が實際僕達位の年齢に達すると、得てして生活と云ふものに眞剣に當面せねばならぬやうな時期に到達して居る。實際

世の中の道德が社會的地位の確保を要する以上、斯様な考への交々至るは當然

であり、亦そうあるのが最も人間の人間であるのかも知れん。

僕は五年或はもつと前かも知れんが、専門學校或は大學を卒業して職にあづか

つて、今迄オヤチの膝下を避く離れて、長い管をオヤチの脛に刺込んで、都會に居

ながらにして吸血鬼の様にオヤチの血管の血を吸つて居たのが、目出度卒業はし

ては見たが、何處へ行つてもソクアウ下され就職する所もなく田舎に歸つて、

今度はオヤチの聲が直接に届く所で、光つた眼の色の微妙な變化をバロメーター

のやうに觀察しながら、直接にオヤチの脛の肉を齧つて食物にして居る當時盛ん

に人口に膾炙された所謂高等遊民の數が多くなればなる程、その國の文化程度の

高き事を示すものであつて、國家としては寧ろよるこぼし現象であると思つた

様な無茶な觀察を敢てして、而も之を堂々と日本の一流所の月刊雜誌に發表する

不届極の人間があるに及んで、例へば遊民ならぬ輩に於てさへも、専門學校、

大學を卒業した人間は、同志に對する屈辱だとばかりに冠を怒髪で撞上げざるを得なくなるのは當然の道理である。と若

い血潮は當時僕をこんなにも悲憤慷慨させたものである。

せられたのである。學校教育の目的が奈邊にあるかは僕はこゝで云ふまい。否僕達が輩の云々する

には餘りに大きな問題であると同時に潜越だからである。が然し恐らく學校に來

る者の大部分が、投資額に對する最大の利廻りになるもの即ち俸給を得んが爲に

ワンサワンサと押掛けて來る所謂ワンサ連であること否否難い一事實のやうで

ある。教育の本義は先づ置き、且又前の様な婉曲な表現法もさし當り次の機會に

譲るとして、僕をして卒直に云はしむれば、學校の卒業は、その目的とする所が

將來の社會的地位を優先的に導かんとするにある以上、僕は現在に於て、上述

のやうな無謀な而も一方的の考へ方には賛成出来ない。次の言葉でその一端を窺

ひ得る。之は泰西の有名文士の言葉であるが「勉強は最大且有効な將來に於ける

保障なり」と。何んだか馬鹿にされて居るやうな中學生あたりが聞いたらさぞ

憤慨するだらうと思ふし、又實に感じの悪い言葉であるが認めざるを得ない立場

にあるものやうである。話は別だが、今度と云つても去る四月

頃の話であるが、母校内の卒業生のみならずなる副手及び講師を一九とした副手會

なるものが創立されて、去る四月の幾日だつたか判つり記憶にもないが新入生

の歡迎遠足を別所の常樂寺に行つた時、この機會を利用して、朝日ホテルで發會

式とシヤレ込んだ。勿論時節柄お茶にお菓子の節約調、集る會員約二〇名に及んだのである。即ち副手講師の數が二〇人

と云ふ事になるのであるが、その趣旨とする所は、今迄のやうに同じ母校の屋根の下に仕事を居ながら、養蠶、製絲

の各副手達が何んの一管の連絡もななく、お互に顔も知らず、顔は知つて居ても名も知らずに他に轉出するのは未だ良

い方として、學校に居る間に顔も知らないうやうな事があり勝ちだと云ふので、第一の目的として、副手相互の親睦を計る

を趣旨として、第二に消耗品扱ひに盡れ勝ちであつたと云ふ副手達が蹴起して一

丸となつたならば、毛利元就の引矢の教訓の如く相當なトータルフォースになり

且同時に副手の位置及存在を判然と認識して戴いて、學校今後の發展の一役を敢

て買つて出様と云ふいと愛すべき心持と、第三に斯界の學術技藝共に微力でも

盡し度いと云ふ悲壯なる心情から出發して居るものやうである。別に副手會が

不自然でも、不穩當でもないのを、或はそんな風に解釋する人があつたら心外と

思はるゝから副手會の爲に一言蛇足を加へてやり度いと思ふのである。同類項を

集めて而して解決するのが方程式解法の原則である。斯くの如き世の中の一般の

趨勢は誰しもが否定し難い統計的事實ではなからうかと思ふ。

例會として月に一回或は二回、千曲會館階上に乗つて各自の愚癡なき意見の交換をやつて居る。又例會の他に副手達の

應召は勿論の事、榮轉、入校の際にはきゝやかながら、送迎の會を催して居る。

他の意味はともあれ、志を同じうするもの、理想、嚆嘖等々人間を代表する總て

の感情を長さ二米、周圍一米に満たない小さな體驗の体に盛り切れないやうな若

いものが、一場に會すると云ふ事丈で、相當に有意義であり、何にか把握し得る

ものがあるだらうと思ふ。おぼしき事云はぬは腹ふくるわざの例、意見の開陳も

良い事である。若いものにして、小さな体に盛り切れない程の血液の脈轉を靜か

にジツト皮膚の表面に手をあて、感じながら、俺は生きて居るんだナ等と生や

しい氣持にのみ浸つて居られるものは少い。又人間は唯に血を盛る器であつたな

らざ知らず、時によつては若い者の血液は逆流し易いのが普通である。時々

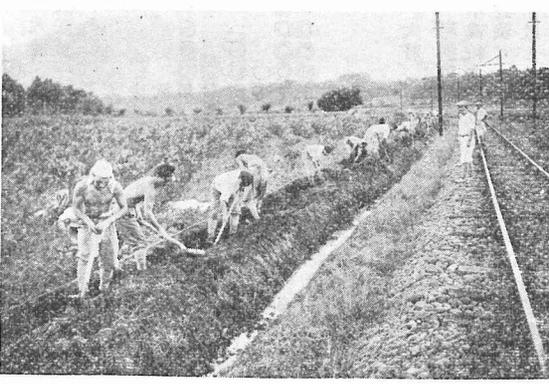
熱のある意見も飛出す事もある。然しそんな時に於てさへも皆の者が決して理性

のラチを踏越えて行動する程冷静を缺いて居ると思はれない。例は何時と決つ

母校ニユース

二期開始 既報の如く本年から暖房費節約の意味で冬期休暇が延長され夏期休暇は縮小される事となつたので三期開始は例年より五日早く九月七日時間割発表、八日一時間目が校長訓示、二時間目より授業が開始された。

集團勤勞作業實踐 既報の如く九月一日より五日迄の五日間母校に於て學生職員が各寮に分宿し、各科に依り計劃された案に基づいて從事した集團勤勞作業の實踐は左の如く、勤勞精神振興にも体位向上にも意義深く校内は一新された。



養蠶科は職員十九名、學生九十名其他にて日々異なる作業を分擔し、蠶室、實驗室、職員控室、小使室、便所等養蠶關係建物全部(建坪八百九十一坪)の掃除洗濯消毒、蠶具殆全部の洗濯消毒、新設桑園の境界土堤(巾三尺、高一尺五寸、長一五〇米)の築造、桑園一町二反歩の除草及び養蠶科建物附近積約三反歩の除草を完了した。

製絲科に於ては一年生二十七名は製絲第一工場東南部の地の深さ一尺面積約五十七坪の土を削り之を運動場の西部に運搬し一五〇坪の地均工事及び貯蔵庫、生絲倉庫東側に巾一尺五寸深さ一尺約二〇間の流水溝堀を行ふ。二年生三十一名は製絲第一工場の南及北側に於ける既設排水土管の掘出し、更に之に代る口径大なる土管埋設の溝(巾三尺深さ三尺全長七〇間)堀作業を行つた。三年生三十一名は製絲工場北側に於て巾三尺深さ三尺全長十四間の溝並に工場と便所の間より教官室と病理實驗室の間を経て學校敷地外北側を流れる小川に通ずる全長三十一間の溝堀をなし、内二十三間は經一尺のコンクリート排水管を埋設完了した。

配屬將校新任 曩に高崎歩兵第十五聯隊長に榮轉せられたる配屬將校谷大佐の後任として歩兵大佐進藤憲三氏が九月九日着任されたが同大佐は弘前市御出身當年五十五歳、仙臺幼年學校、士官學校を経て明治四十四年少尉に任官、秋田十七聯隊附、秋田中學校配屬將校、滿洲事變に出征、朝鮮國境守備より福山聯隊附、愛媛師範配屬將校、支那事變勃發と共に松山廿二聯隊長、本年五月より十四師團司令部附に群馬師範配屬將校となり今回母校配屬將校となられたもので谷大佐の一年先輩である。

新舊配屬將校接換 九月十日、去る六月母校より高崎聯隊に榮進された谷大佐佐並に九月九日新任された進藤憲三大佐の辭任、着任の挨拶が講堂にあつた。谷大佐は上田を去られる時は校外實習に出た學生が半ばあがり急いでも居られた爲に別れの詞を交す暇もなかつたが、今度進藤大佐新任されたるに就き事務引継ぎの爲懇々來校、改めて辭任の挨拶をされたのであつた。

遭難者を救助せる學生に金一封 去る一月四日日本校學生山岳部員の一行、阿形一三、小口宗久、内海浩、宮田修(以上本春卒)目崎武美(七三)宮田晴(七三)北村元三郎(七三)の七君がスキー Trip 中志賀高原吹雪の笠岳山中に尊い人命救助をせる事は已に本紙二月號にて御存知の筈である。今回左記七名に對し表彰する所あり九月十日各君に對し縣廳より金一封を贈與された。

卓球部鐘紡上田工場と試合 卓球部は九月十日午後六時より鐘紡コートに於て鐘紡軍と日本式により始めての一戦を交え四對三で勝つた。スコア一左の如し。

製絲研究室工事着手 去る一月化學方面の研究を主とする實驗室の完成を見た製絲科では、九月初旬主として物理方面の研究室即ちレントゲン、光學實驗、寫眞等の實驗室の工事に、三千圓の工費豫算を以つて着手した、完成の豫定日は大体本年一杯である。

乾繭實習 製絲科二年乾繭實習は九月七日から十日迄三日間晝夜兼行で行はれた。使用繭の購入地は小諸、上田、篠ノ井地方の秋繭にして、小諸地方のものに近來にない連續的の淺間の爆發による降灰の爲品質が非常に不良であつた。乾繭數量約千貫であつた。

縣下中等學校庭球大會 母校庭球部主催第九回縣下中等學校庭球大會は九月十一日(日曜)午前八時より母校コートに於て開催された。出場校は松本中學、松本商業、長野師範、長野中學、長野商業、長野工業、松代商業、上田中學、小縣蠶業、丸子農商、小諸商業、岩村田中學、北佐久農、野澤中學の十四校、六十二組

で、コート、天候共に絶好のコンディションにて肉弾相搏つ白熱戦を演じ、結局松本中學が四年連覇し上田市長杯並に優勝旗を獲得した。准決勝、決勝の戦績は左の如し。

長野商業(山田 4-3 桂井) 上田中學(中村) 松本中學(塚田 4-2 柳澤) 野澤中學(矢崎) 春原) 野澤中學(松本中學) 矢崎) 中村) 長野商業(塚田 4-1 山田) 長野商業(矢崎) 中村) 長野商業

防空訓練實施 今回昭和十三年度第一次東部防空訓練實施されるに當り母校特設防護分團に於ても訓練の目的即ち敵の空襲に對する監視、通信の實戰的研究訓練に警報傳達、燈火管制訓練の徹底を期すべく警備班(班長遠藤教授)の職員備人分團員は訓練期間の九月十二日より十六日迄の五日間數名宛交代にて晝夜兼行にて訓練を實施した。

二學期總代任命 九月十四日今日學期の各級總代の任命式が校長室に於て行はれ左記の如く夫々正副總代が任命された。

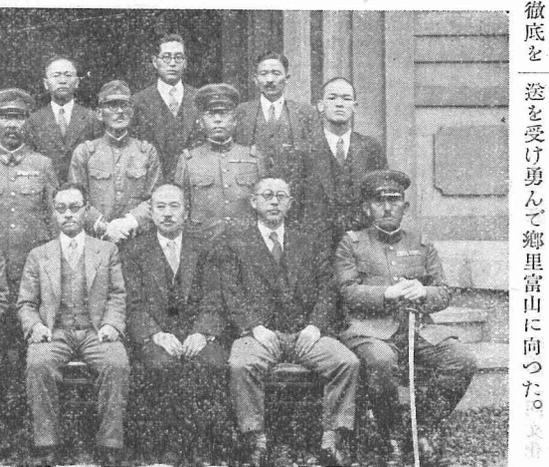
總代 副總代
蠶三 長末方夫 青山 武
蠶二 小山富治 村澤 功
蠶一 夏内 明 北村 義
蠶一 山岸琢次郎 南木 嘉一
蠶一 御子柴希太郎 金子 肇
蠶一 小林義八 宮田 章
蠶一 飯田武門 吉田 耕三
蠶一 飯田才登 岡田 幸一
蠶一 瀧澤今朝 岡田 幸一
蠶一 小林トミ子 片山 幸
蠶一 松村志満子 笠井 里志

二學期各寮長任命 九月十四日今日學期に於ける各寮の正副寮長任命があつた。

修己寮 加子三郎(蠶二)
東寮 金子肇(蠶二)
高嶽寮 北村元三郎(蠶二)
副寮長
修己寮 村本才登(蠶二)
東寮 河野英記(蠶二)
高嶽寮 神崎聖徳(蠶二)

然科學研究獎勵金五百圓也を交附される事となつたが之は一昨年來引續き研究中の「絹絲紡績法に依る人造纖維紡績に於て製綿及前紡工程の大部分を省略し得る人造纖維を製造する方法」に對してである。

鑑塚好作氏應召 昭和十年卒業後母校生理實驗室に副手を勤められ其の間一年間金澤輻重隊に幹部候補生として入營、除隊後再び同實驗室に勤務せられた鑑塚好作氏(蠶二)は曩に輻重兵少尉に任官し今かかと命を待つてゐたが九月〇〇日希みの〇〇令を受け翌十七日威風堂々たる軍裝に身を固め、全校職員生徒の歡送を受け勇んで郷里富山に向つた。



香山助教授奨勵金を交附さる 母校紡績科香山助教授は九月十六日附を以て昭和十三年度文部省自

第十二回代議員會開會通知

来る十一月二十三日午前九時より母校に於て第十二回代議員會を開會致しま...

出征會員慰問資金募集

出征會員慰問資金を募集致します。慰問事業實行上に關する經費所...

應召者並に召集解除者に就て御願ひ

一、應召者に就て 應召された場合は其の旨本會迄御一報願ひます。本紙會員動靜欄...

校歌レコードの頒布

待望久しきレコード成る。針塚先生の肉聲は眞に迫りて恰も親しく聲援に接するが如く校歌、三唱、亦...

日本蠶絲總覽廣告

御案内の日本蠶絲總覽は一目瞭然我蠶絲紡織の重要資料を簡潔に餘す處無く...

發行所 長野縣上田市常入 蠶絲科學研究會

本會記事

本會日誌

八月十二日 故手塚謙三郎、故新村幸三、兩氏の英靈を送迎す。九月三日 針塚先生謝恩資金及統後資金...

針塚長太郎先生謝恩 記念資金申込報告

九月五日現在迄の發表中には申込がなかつた故に申込口数に加へません。九月五日現在迄の申込口数及び申込金額を發表いたします。

- 針塚長太郎先生謝恩 記念資金申込報告 (第四回) 九月五日現在迄の申込口数及び申込金額を發表いたします。

針塚長太郎先生謝恩 記念資金受領報告

- 針塚長太郎先生謝恩 記念資金受領報告 (第五回) 九月五日現在迄の受領報告欄の金額拾五圓也田浦藩は田浦準が正當に付訂正す。

- 針塚長太郎先生謝恩 記念資金受領報告 (第五回) 九月五日現在迄の受領報告欄の金額拾五圓也田浦藩は田浦準が正當に付訂正す。

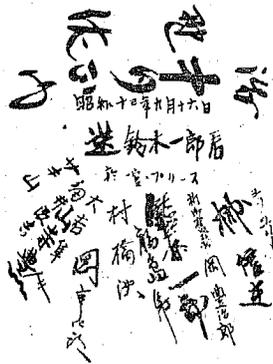
會費領收

- 會費領收 (十月五日) 昭和十三年度會費金四圓也 西山市三(蠶九) 山口定次郎(蠶十)...

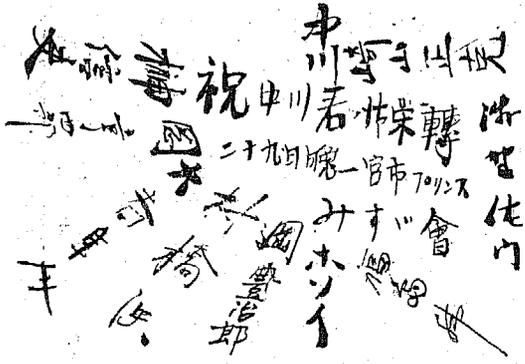
支會通信

みすゞ會の會合

九月十六日夕一宮市プリンスに於て吾等の會員鈴木一郎君の送別會を開きました。その意氣天をもつき其の和何物にもかへ難き會合なり。吾等みすゞ會の此の意氣を知れ。同君の將來の御出世を衷心より祈る。(左は當日出席者の寄せ書である)



吾等の會員中川正君が今度縣商工課に榮轉されましたので九月廿九日夜一宮市プリンスに於て祝ひの會を催しました。之れはその時の寄せ書です。君の將來の益々御奮闘を祈ります。



計報

弔慰金募集

故山口永太郎氏(靈廿一) 故伊藤柳作氏(靈廿一) 右二氏に對し弔慰金を募集致します。弔慰金は十月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈致したいと思ひます。其の御遺族に間に合ふ様振替口座東京四三三四一番へ夫々故人に對する弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。 昭和十三年十月 千曲會

故新村幸三氏 御遺族よりの禮狀

肅啓故陸軍軍醫長上等兵新村幸三儀村葬の際には御多忙中遠路遠々御會葬被下且御鄭重なる御香資を賜り誠に難有奉深謝候。 昭和十三年九月二十二日 上伊那郡朝日村 節國子藏

弔慰金報告

- 故新村幸三氏弔慰金第四回 金貳圓也 千曲會 林貞三 右合計金五圓也 故山口永太郎氏弔慰金第二回 金壹圓也 平岡英司 前島正喜 右合計金五圓也 倉澤恒夫 中島正喜 故手塚達郎氏弔慰金 金貳圓也 (同級生町田博氏投分) 町田博 稲葉正一 河越哲男 中島正喜 石塚亮 坂口芳文 水谷清喜 右合計金拾圓也 累計金六拾五圓也 (十月十日市非常日贈呈済) 故手塚達郎氏弔慰金追加分 金貳圓也 淺沼義彦男 故藤澤喜一郎氏弔慰金第五回 金壹圓也 千曲會 野口新太郎 香山清和 小松忠一郎

故手塚達郎氏戦死の状況

去る二月十三日平漢線洪縣西方大胡同村附近の戦場に於て名譽の戦死を遂げられた故手塚達郎軍曹(靈二二)の當時の模様を就て熊谷部隊長發信、二月二十四日付の書狀が六ヶ月後の九月五日に實父手塚初十郎氏に届けられた。同氏は其れを母校倉澤教授の許にも齎し達郎氏に對する千曲會の恩誼を謝した。左にその全文を掲ぐ。

拜啓、時下餘寒未だ難去き處々御清移に渡らせられ奉慶賀候。陳者御子息達郎殿昨年〇月當隊に應召以來熱誠軍務に御勵精相成業の模範たるもの有之候處本月拾參日河南省大胡同村附近の戦場に於て壯烈なる戦死を遂げられ候につき茲に御報告申上候。以下當時の模様略記仕り御左右に呈し申候。 當隊は昨年〇月二十五日より〇月七日迄河南省水冶鎮に警備八日行動を開始十日より連日大山脈に沿ふて山寄り堅固なる陣地に據れる敵を撃破し十三日前記大胡同村附近に到るや迫撃砲機關銃等を有する敵の頑強なる抵抗を受け攻撃困難なる状況に達せり。時に午前十一時〇分は同村に於て敵の猛射中糧食を喫し午後零時半前高地の敵を攻撃すべき命を受け速時攻撃前進を起せり。恰も敵は高地に重機銃其の山脚に無数の散兵及びトーチカ陣地あり。中隊正面は敵の十字火を蒙り死傷續出するの止むなきに至り候。此の時隊長は部下分隊を指揮し常に先頭立ちに立ち進めれば後れんとする部下を勵まし前進を繼續せり。隊員亦三名の重傷者を出し正に突撃に移る事なく遂に敵前三百米正に突撃に移らんとせる際敵の射撃に會ひ壯烈なる戦死を遂げらる。其の行爲は誠に鬼神も驚くべく併し乍ら前途尚秋に當り同君を失ひし事は御兩親の胸中を思ひ遣られ本報告を呈するに當りても萬感胸に迫るもの有之候。斯く申す小生も本職に於て左腕貫通銃創を受け候のみならず中隊將校五名中三名の重傷者を出し候様の次第に候此の邊御承の上せめての心遣りとして下され度誠に申悪き次第に候(其右報告申上候。早々敬具 昭和十三年二月二十四日 熊谷部隊長 手塚初十郎殿

新村幸三氏村葬

去る五月十一日徐州大會戦の前哨線である大山集の戦場に於て名譽の戦死を遂げられた製絲科第十九回卒業生故新村幸三氏(靈廿二)の村葬が九月二十二日養家上伊那郡朝日村に於て施行され、本校より千曲會代表として林教授が参列し左の如き弔詞を呈した。

昭和十三年十月廿三日、故陸軍軍醫長上等兵新村幸三君の英靈を祭るに當り余は千曲會を代表して恭しく奠を捧げ些か燕辭を陳べて哀悼の誠意を表さんとす。 先に日支事變の起るや、君は命を捧げて〇部隊伊藤隊に入隊し勇躍出征上海より南京攻略戦に参加し江南の山野に轉つて今春轉じて天津より山東省に進み所在の敵を平定しつ、徐州攻略に向ひ彼の曠古の大戦の前哨戦たる大山集の敵砲兵陣地を攻撃すべく時に五月十一日君は選ばれて砲手となり濟寧より敵陣に肉迫、茲に一大激戦となりしが偶々敵砲弾は不幸君の側方に炸裂し遂に中原の華と散らる。嗚呼壯烈鬼神をも哭かしむ。

思ひは去年、君は出發に際し余に書を寄せ「此の度出征をなすは再度祖國の土を踏み得るとも考へられず云々」と云へり。又養父及實兄に對しては事細かに後事を托せる遺書を認め偶々病褥にありし夫人に對しては愛別の情最も濃やかなりしものありと聞く。 一死報國は軍人の期する所とは云へ君の如きは克く此の心境を体得したるもの洵に軍神乃木大將にも劣らざる大精神にして帝國軍人の龜鑑と云ふべし。而も聖戰に従ふ事十ヶ月幾多の敵を征討し更に歴史的大會戦に参加し護國の鬼と化せられし事、軍人として悔なく君や恐らくは男子の本懐とせらるゝならん。

然れ共、吾等は君の至高なる人格を偲び卓越せる技能を思ふに付け痛惜哀悼の情を禁ずる能はず。嗚、君の温容は眼前に夢露たりと雖も今や遂に再び見ゆるを得ず。悲しき哉。 君は上田市宮下家に生れ小縣蠶業學校を経て上田蠶絲専門學校に學びその成績恒に拔群なりき。而も幼にして父を失ひ多數の兄弟と共に女丈夫の開え高き母堂の許に育ちたれば餘の學生とは自ら異り寸暇あらば家業を手傳ひ孝養を盡くせり君、學業を卒ふるや片倉製絲紡績會社に入り岡谷、松江、宇佐等の各工場に歴任し未だ三十歳に至らざるに工務主任の重任を負ふ。其の間、特に新村工場長の信託する所となり遂に新村國藏氏の養嗣子として迎へらるに至る。養家は任地とは遠く距れ共、心は常に一にして養父はこよなき後継者を得たりと會ふ人毎に語れりと聞く。

斯る事情を知悉する余は君の御遺族に對し特に深甚なる同情を禁ずる能はず。特に一家の支柱を失ひ窮へ節子夫人との間に未だ嗣子無き新村家は洵に暗夜に燈火を失ひしと云はんか。御遺族の心中御推察するに斷腸の思ひあり。 嗚、然れ共余は堅く信ず、斯る名譽の一家一門に對しては神明必ずや加護ありて驅て幸慶門を訪れ一家御繁榮の途の自ら開けんことあるべきを。 思ひ愛に到ればそれ又何にをか悲まん獨り悲しむべき所ものは今君に告ぐるに君の音容に接する能はず、唯アルプスの連山白雪の盡くるを知らず天龍の流に蒼波の限りなきを見るのみ。 嗚呼、悲しき哉。 願くは英靈懷恤として來り襲せよ。

戰地通信

清水洗氏より

殘暑猶耐へ難く候折柄諸先生並に在校千曲會員の皆様には御變りも無之儀や謹みて御伺ひ申上候。次に小生客年應召以來格別なる御配慮を賜り又度々留守宅御慰問下され重ねの御厚情衷心より只々感激の外無之候。下つて小生御蔭を以て無事勤務致居候。現在〇〇沿岸(南京より上流)の一寒村に宿營致居候。當地附近の農民は現在稻刈に多忙に御座候。鐵道も日増しに完備致し輕便列車は重列車に變り復興の目覚ましに驚く外無之候。殊に鐵道は内地のもの支那大陸を速走致し南京上海間には長野工場所屬(列車横に長野工とあるもの)の客車快速致居候。痛快に御座候。中支に於ける農具は全く幼稚のものに有之稻こきには四角なる箱を用ひ之に刈りたる稻をたきつけける程度にて今後改良の餘地多々有之様見受けられ候。最早應召十一月月に垂々と致居何を見ても當然の如く感ぜられ此の分では内地の風物に驚奇の目をみはるには非らずやと存居候。次に小生先般來數次元母校配屬將校出田剛介大佐殿に御目にかゝる機會を得色々承り候事の一端別紙に認め候ま、御迷惑とは存候へ共時報に御掲載被下候へば幸甚の至りに御座候。今末筆諸先生並に會員の御健康と千曲會の御隆盛を衷心より祈上候。

出田部隊長の部下となりて

今事變發生と同時に勇躍征途に上り北支戰線に於て赫々たる武功を立てられた出田部隊長(母校配屬將校)には徐州の陥落するや軍を中支戰線進められた。此處に於て私は計らずも北支炎熱に日燒けした元氣な出田部隊長の部下となり色々御話を承りました。

出田部隊の活躍

昨年十月十八日早朝から正午まで舟で前進を續けたる出田部隊長は〇〇に上陸するや自ら軍の先頭に立ち七十里の悪路を殘敵と戦ひつゝ遂に大使命を果された苦心談をなされました。がもし敵が出なかつたら鳥帽子岳の演習の時のやうに歩けなかつたであらうと御話がありました。又徐州の戦場に於ては敵の濠の直前を自動車走り後之を知つてどうりて彈丸が澤山來たが知らぬといふものは大したものだと笑つて居

關、照氏より

愈々御隆盛の御事と存上候。扱て小生儀此度大陸に於ける新任務を帯びて過日征途行に就き去る十九日〇〇に上陸二十六日此所〇〇に到着仕候。暫く此所に居付り候と存候。當地は既に最前線にして至近距離にて敵と相対し居候。晝間など我軍の反撃を恐れおぼし得ずの彼等に候も夜半に至れば盲打の銃聲を我に浴せ居り實に笑止の限りに御座候。先は到着の御挨拶申上候。

松崎武雄氏より

殘暑尚ほ凌ぎ難き折柄御一同様には益々御健康御奮闘の御事と存じます。小生も去る廿五日を以て記念すべき一週年を迎へ今日迄幸ひ身に寸傷も負はず活躍出來得ますの備に銃後各位の御祈願の賜と深謝致し居ります。現在膠濟線の〇〇に舞戻り後方勤務に任じて居ります。沿線各地は半年前とは雲泥の差にて到る所多數の内地人を見受け小学生の可愛らしき姿は平和のシンボルの様に感ぜられます。今回部隊名の一部又々上記の如くに改正されましたから御知らせ致します。(千曲會宛、八月廿一日)

秋風幸胤氏より

其の後は御無沙汰のみ申上候。扱て先生には過般學校長を御勇退の趣き遺き戰地に於て拜察仕候。今更ながら小生どもが何のかの御願しても詮なき事と拜察致し謹して長年月に亘る厚き御御訓を感謝申上候。尙今後とも先生の御教訓を奉じて夢忘れまじ努力勉勵致度候。殊に有史以來の困難に身を以て御奉公中の小生どもとしては一層其の感を深く致居候。次に小生も其後相變らず元氣にて皇軍後蒙の驍尾に付し微力ながら精一杯御奉公中に有之候へば他事なら御放念願上候。出征以來上海戦浦東掃蕩、杭州攻略徐州戦を終へて去る〇月十九日〇〇附近〇〇港を出航沿岸の殘敵と交戦しつゝ大揚子江の濁流を遊航する事八日間〇月二十六日に鄱陽湖〇〇に上陸仕候。直ちに戰線に進出參加爾來毎日激戦を繰返居候。戰地城内例の清少納言の故事で有名なる香爐臺を中心とした山岳地帯で殊に敵は裝備訓練優秀なる〇〇の精銳が石山の堅壁に據つて死力を盡し抵抗致居候へば上陸以來約二十日難戦を重ね居候。毎日皇軍勇士は多數國魂の鬼と化して英靈を地下に送り行く現況は洵に殘念の極みに候。秀峯香爐臺鄱陽湖一帶の敵地も斯の如く多數敵友の血に赤く彩られて寸分、占領致居候。而し最近流石の頑敵も幾分弱りたる模様候に候へば總て崩れる日も遠からずと信じて我が部隊は一層の猛攻を加へ居候。先は御挨拶申上候。況御報知申上候。(針塚先生宛、九月十八日)

鈴木正悟氏より

百何十度の暑さも何時しか過ぎ去り朝夕はめつくり涼しく風に散り來る一葉二葉の木葉も一入秋の感を深め候。其の後には警備に討伐に將又移動とついで多忙にて意外の御無音に打過ぎ失禮仕り候。諸兄には愈々御壯健にて銃後の守りは再等よりの意氣物とすぐ日夜寝食をも忘れ御深く感謝致し居ります。現月日は流るゝ水の如く吾等も渡支以來早や半歳と相成り候。その間西に東に移動する事數回今又々北支の大都市濟南より〇〇線に淋しい小さな驛に來り鐵道守備を致し居候。當所は濟南の賑きに引き返へ四週は曠漠たる平原にて高粱、粟は既に全部收穫せられたるは只大豆のみにて候。附近は大變匪情悪く自分の守備區域内にて

池内眞吾氏より

御無沙汰致し申譯ありません。其後皆様御元氣の御事と存じます。小生も益々元氣です。内地を〇月十五日に出發し〇〇日に〇〇に上陸致し只今〇〇地に居ります。當地は空爆を受け見る影もありません。日中は敵の影もありませんが夜には時々夜襲して來ます。然し眞暗な夜は絶對と云つてよい位來ません。十五夜以後二十日の間に月の光と照つた時でなければ來ません。何んと風流な支那兵ではないですか。儀等の隊では未だ一名の負傷者もありません。皆元氣旺盛ハリキツテ居ります。又、千曲會員諸君によろしく。(倉澤教授宛、九月二十日)

鈴木茂氏より

持の機會も恵まれず本日に至り漸く本の走り書きにて御便りを認める次第悪しからず御海容の程お願ひ致します。徐州戦以後は比較的平靜なる日が續き各地の技術的作業の外にはこれと云ふ華々しい戦闘もありません。兎も角百數十度といふ酷熱が去つたので皆よろこんで居ります。殊に信州人にとつては暑さといはんよりは寒さの方が遙かに抵抗性に富んで居る様に思はれます。愈々耐寒性に當りだ我々の得意の場面たる冬も間近に迫つて參りました。當方もすつかり高粱は刈りとられ續いて粟、きび等が收穫せられ只今の所平野には落花生、甘藷等が仲々立派に作られて居ります。中支方面の集約經營に比して頗る大規模な粗放農業ですが仲々整然と耕作されてあるの内に樹木は一帶に柳が多くその外に内地のホブラに似た闊葉樹が多く大きいのは屢々我々工兵の架橋材料となります。耕地に草がめつたに生じないの不思議です。土壤學的な調査をしたら内地の土壌に比較して面白いものが出ると思ひます。廣漠たる平原であり乍ら風が殆んど無いのも不思議の一ツそれらに山間の貧村でも宮殿式の教會が空を摩してそびえて居るのも意外な感に打たれます。獨國、佛國、英國系のものが多い様です。一寸した山岳地帯に入ると炭鑛の多いのにも驚きます。北支が開發された炭鑛のみでなく其他の鑛脈が續々と發見される事とせう。動物は豊富では有りませんが未だ一度も見聞しなかつた様な奇妙なホルの一種や微小の甲蟲が時々目に留ります。斯う云ふ事を思ふとき農業方面に又理學方面に一日も早く研究機關が設置せられて數千年來の沃土と資源の開發せらるゝ事を切望する次第です。此の頃某任務を以て曲阜の孔子廟を訪れる機會を得ました。聖地として匪賤の襲ふ事なく城内は誠に平和其のものゝ如く善人の安息の場所となつてなごやかな氣分にあふれて居ります。廟の宏大なる建築の豪華なる又其の莊嚴さに於て思はず襟を正さしむるものがあります。久方振りに命の洗濯を致しました。孔子七十七代の孫孔德明は現存しあり目下四川省にあり孫氏は其住宅又如何にも至聖の孫に房はしく簡潔にして莊嚴であります。漢口の陥落も間近に迫り毎日ニュースと地圖とを首引にて陥落の報を待ちつゝあります。色々亂筆にて失禮しました。先生の御健在を祈ります。(針塚先生宛、九月廿四日)

秋風幸胤氏より

敵の爲妨害を受け頭覆せる列車が今尙その儘轍を止め居る個所が三ヶ所も有之驛と目と鼻の所にあるは最もひどく當〇〇線の事故最大のもの候。匪賊敗殘兵のみならず未だ直撫工作充分ならざる爲附近の部落民とて油断はならず以前は小瘡にも世間鐵道破壊に度々來りたる事に於て線路に近接せる部落は全部焼き拂ひあり候。幸ひ吾々當地に來てより盡き一度もかかる事なく畑に農夫が面をきまてのんびりと耕作に余念なく平和ぞのものをこれと云ふ事に匪情が惡るきかと疑はるゝ程にて候も夜ともならば毎夜々々間近に銃聲時々は機關銃射撃の音きへ致し吾々としては全く癪に障り居り候が全然言葉は通せず驛同様に尙奴等々は情報蒐集が一苦勞にて御座候。吾々には情報蒐集が一苦勞にて御座候。勿論偵偵も使用し情報蒐集には務めて居るも全く之もたよりとは相成らず之に反し奴等の謀報機關の發達して居る事には只々驚くの外なき次第に御座候。兎に角吾々の任務は野戰部隊に反し全く地味なものにて連日連夜一日たりとも氣をゆるめる事は出来ず後下りの力持ちも相當なものに御座候。然し之も東洋永遠の平和の過恨を絶んが爲め盡す務めに變り無之の覺悟故軍糧御休心被下度候。時局益々多事多難の折柄諸兄の御健康と御奮闘の程を祈り上げ候。尙今後共倍舊の御指導御鞭撻あらん事を願ひ上げ候。先は御無沙汰御詫言々近況お知らせ迄如斯御座候。(千曲會宛、九月十九日)

鈴木正悟氏より

敵の爲妨害を受け頭覆せる列車が今尙その儘轍を止め居る個所が三ヶ所も有之驛と目と鼻の所にあるは最もひどく當〇〇線の事故最大のもの候。匪賊敗殘兵のみならず未だ直撫工作充分ならざる爲附近の部落民とて油断はならず以前は小瘡にも世間鐵道破壊に度々來りたる事に於て線路に近接せる部落は全部焼き拂ひあり候。幸ひ吾々當地に來てより盡き一度もかかる事なく畑に農夫が面をきまてのんびりと耕作に余念なく平和ぞのものをこれと云ふ事に匪情が惡るきかと疑はるゝ程にて候も夜ともならば毎夜々々間近に銃聲時々は機關銃射撃の音きへ致し吾々としては全く癪に障り居り候が全然言葉は通せず驛同様に尙奴等々は情報蒐集が一苦勞にて御座候。吾々には情報蒐集が一苦勞にて御座候。勿論偵偵も使用し情報蒐集には務めて居るも全く之もたよりとは相成らず之に反し奴等の謀報機關の發達して居る事には只々驚くの外なき次第に御座候。兎に角吾々の任務は野戰部隊に反し全く地味なものにて連日連夜一日たりとも氣をゆるめる事は出来ず後下りの力持ちも相當なものに御座候。然し之も東洋永遠の平和の過恨を絶んが爲め盡す務めに變り無之の覺悟故軍糧御休心被下度候。時局益々多事多難の折柄諸兄の御健康と御奮闘の程を祈り上げ候。尙今後共倍舊の御指導御鞭撻あらん事を願ひ上げ候。先は御無沙汰御詫言々近況お知らせ迄如斯御座候。(千曲會宛、九月十九日)

